



名前 「

」

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて、炭櫃に火おこして、物語などして、集まりさぶらふに、「少納言よ、香炉峰の雪いかならむ。」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。

人々も、「さることは知り、歌などにさへ歌へど、思ひこそ寄らざりつれ。なほ、この宮の人には、さべきなめり。」と言ふ。